



象サイトを公平に比較できない」という発言が非常に多く、脆弱な地域を“公平に”評価したうえで選定したいとの意向が強く表れていて、心強く感じました。



同僚をまとめて協議した功労者（写真右：県開発計画担当官）



パソコンを使って選定の経過を纏める作業中

続けて、整理された選定基準を用い、様々な議論を経て選定された対象サイトについて、定例議会にて首席行政官らから地方議員やセクター関係者に、経緯も含めて説明が行われました。対象に選ばれなかった地域の議員から、「なぜ同じ地域から2サイトも選ばれているのか。不公平ではないか。」との意見が出ましたが、「脆弱性等を計るための選定基準に沿ってデータを入れた結果であり、誰かが（恣意的に）選んだものではない。」との行政官の自信を持った説明に議員も納得し、全出席者から承認が得られました。



選定作業によって最終的に決定された対象サイト

（左：カンビア県 Masungbala チーフダム Sumbuya 小学校、右：同チーフダム Bankamakulor 村の保健施設）

対象サイトの絞り込みに係る協議では、「最終的に選定したのは俺じゃない！」といった発言が一部の行政官にみられたことから、行政官が自分たちで選定したと自信をもって発言できるよう、行政官自身が議論を尽くす必要性を、改めて強く認識しました。議論に議論を重ね、苦しみながらも生み出した結果が多くの人に受け入れられた今回の経験は、県行政官の自信に少なからず繋がったのではないかと思います。

今度こそ両県で復興パイロットプロジェクト及び対象サイトが決定し、パイロットプロジェクト開始に向けた準備が始まります。次号、乞うご期待！！